

技術で豊かなまちづくり

平成13年1月1日

高知土木技士

No.28

(社)高知県土木施工管理技士会 [高知市本町4-2-15 建設会館5F TEL825-1844]



平成12年度表彰 高知県優良建設工事

施 工

有限会社 長重建設

工 事 名

国道439号交通安全施設等整備工事

場 所

長岡郡本山町本山

現場代理人

坂 本 正 幸

土木施工管理技士会倫理綱領

会員は、国家資格者として誇りと品格を保ち、
常に自己の資質と技術の向上に努め、
社会に貢献すること。

(誇りを持つよう)

1. 土木技術の国家資格者として誇りを持って行動し、日頃から技術の研鑽けんさんに励むこと。

(技術力を活かそう)

2. 技術者として自己の専門的知識及び経験をもって良質な物を作ること。

(公正な行動をしよう)

3. 携わる事業の性質から、公正・清廉けいれんを尚たもび、広く模範となる行動をすること。

(ボランティアに参加する等、社会に貢献しよう)

4. 技術者として知識・経験を活かし、災害時等はもちろん、普段の生活においても、地域活動や社会奉仕に積極的に参加するよう努めること。

新年の御挨拶

会長 宮田 益吉

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

21世紀の新しい年明けが会員皆様にとりまして、幸多い年であり弾みの年でありますようお願いしております。

20世紀を締め括る昨年は、創立20周年を終了でき、皆様方のあたたかいご協力、ご支援の賜物と、ここに改めまして厚くお礼を申し上げます。

創立以来、高知県土木施工管理技士会を育て、組織の充実に貢献されました北村牛基前会長の後を継ぎ、新しい役員と共に希望を携えて、21世紀へと進んで参りますが、業界を取り巻く環境は決して平坦なものではなく、新しいシステムによる技術競争の時代を迎え、更なる技術力の向上に一層努力する必要があります。

(社)全国土木施工管理技士会連合会において、「土木施工管理/CPDS」(継続的専門能力啓発システム)制度を発足させ、当技士会においても、四国4県の土木施工管理技士会と呼応して、昨年11月に建設省四国地方建設局・高知県土木部よりの講師にて、土木施工管理技術講習会(第1回のCPDS対象講習会)を実施いたしました。これは、会員の土木技士一人一人が、資格取得後の技術研鑽に励み、プロとしての生涯学習を通じた施工技術の向上を図るもので、全国统一した指定講習で学習評価として登録管理し、技士個人のメリットへ活用するものです。

一方、CPDS参加による活動については、経営事項審査の技術力評価への算入や、工事实務経験と見なす、また、技術検定受験の資格要件である実務経験年数の短縮等、外部からのメリット実現に向けて行政側に働きかけを行っています。今後とも、全国的な広がりを実施する当技士会の講習会・見学会・技術論文等募集へ積極的にご参加いただき、CPDSの実績を積み上げ、技士会活動が新たな進展を機するものであります。

なお、日常活動においては、主任(監理)技術者の現場専任制の徹底として、工事施工に当たり技術者の所在を明確にするため、胸章着用制度を定着させ、建設業として襟を正し、信頼される施工能力の確保と証明を併せ、優良技士としてその優位性を発揮、業界の健全な発展に貢献して参りたいと思っております。

土木施工管理技士会も、平成12年度で福井県の設立をもって全国組織が完了しました。21世紀の新しい時代には、より一層社会的存在意義の高い、土木技術者集団として、その推進が要望されます。

会員の皆様、また、賛助企業の温かいご支援により、会員のための、高知県土木施工管理技士会として発展することを誓い、新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

高知県土木部長 石川和秀

新年あけましておめでとうございます。21世紀という大きな節目の年頭にあたり、皆様のご多幸とご健勝を心からお祈り申し上げます。

皆様には、平素より本県の土木行政の推進にご支援、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

21世紀を迎えた今日、高度情報化社会の急速な進展にはじまり、環境問題への関心の高まりと循環型社会への移行など、公共事業を取り巻く環境は大きく変化しています。

また、昨年是与党三党合意にともなう公共事業の見直しや「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」の成立など、公共事業を執行するうえで、これまで以上に効率化や透明化に向けた取り組みが必要になっています。

こうした状況を踏まえながら、これからの地方分権の時代に対応するために、高速道路や港湾などの交通施設や防災施設といった県民の暮らしや経済を支える基盤整備を着実に進めていく必要があると考えています。

更には、今後は既存ストックの有効活用や適切な維持管理がより重要な課題となってくるものと考えられます。

しかしながら、本県の財政事情は大変厳しい状況です。財政の健全化を図りつつ、限られた財源で県民のニーズに的確に対応し、県民の満足度を高めていくことが求められています。

そのためには、住民参加による事業手法の導入や入札契約制度の改善などに積極的に取り組むとともに、様々な工夫と努力によって、より質の高い社会資本の提供を目指す必要があります。

このような取り組みを進めるなかで、皆様には、より高い技術力を発揮していただきたいと願っています。

急速に進む土木技術や社会ニーズの変化に対応できる技術者が求められており、昨年にとスタートした高知県土木施工管理技士会による技術者の継続教育制度は、まさにタイムリーな取り組みであり、その成果に期待をしています。

今後とも、皆様におかれましては、土木技術者としての品格と誇りをもって行動してくださるようお願いいたします。

よりよい県土づくりのため、高知県土木施工管理技士会のますますのご発展と皆様のご活躍を心からお祈りします。

平成12年度 会計検査の結果について

高知県土木部技術管理室企画調査班長 清藤 賢一

平成12年4月17日から21日まで建設省道路局所管事業会計検査が行われました。この検査で、指摘されたこと、また気付いた点をいくつか紹介させていただきます。

① 杭基礎工の支持力算定方法

- ・ 杭基礎工の中掘り杭で設計する場合、杭先端の土質が砂礫等の場合は、道路橋示方書では、支持層の支持力算定法が記載されているが、岩質の場合は確立されたものがなく、他の資料を参考に対応した。
- ・ 鋼管杭の支持力計算において、N値が2以下の場合、杭の最大周辺摩擦力度は無視すべきところ、N値が1のシルト層で周辺摩擦力度を1として計算していた。

② 中間帯鉄筋の施工

- ・ 橋脚の施工において配筋図では、中間帯鉄筋はフック状曲げ加工した両端部を帯鉄筋にかけているが、主鉄筋のみにかけていないか工事写真等で調査した。
- ・ 逆T式橋台の施工において配筋図では、中間帯鉄筋の一方を鋭角フックとしていたが、現場では両側とも直角フックで施工されていた。

③ 法面工のアンカー工及び橋梁下部工における基礎杭の施工

- ・ 現場施工に際して、当初設計と土質等条件が異なっている場合、杭基礎の根入れ長及びアンカーの定着長が設計変更され施工されているかどうかまた、その決定根拠を調査した。
- ・ アンカーの角度が何を基に設計施工されているか根拠を調査した。

④ 鋼管橋脚工における鋼管の腐食代

鋼管橋脚工において、道路橋示方書の常時水中及び土中にある場合の腐食代を準用して、空中部分も腐食代2mmで設計した。

しかし、他の事例では、空中部分の腐食代を5mm〔(水産省の基準で年当たり腐食量0.1mm)×50年〕で設計していたため、双方の違いについて調査した。

⑤ 落石防止装置を設置した場合の胸壁の設計

胸壁の設計において、落石防止装置を設置した場合の検討がなされていなかったため、改めて検討すると、胸壁のせん断力が下回り所定の安定度を欠いていた。

⑥ 橋台における置換えコンクリートの設計

当初設計において、想定岩盤線によって置き換えコンクリートを設計していた。施工に際し、想定した位置に岩盤が出なく設計変更したが、変更した形状の置き換えコンクリートの安定計算の再検討を求められた。

以上が指摘或いは立ち会った際の気づいた主な事例ですが、これらは、発注者、設計者及び施工業者が、それぞれの立場での注意を怠った事例が多く、設計、施工、管理、監督において、どういう点が重要であるのか再認識して、私たちに課せられた責務を改めて考え、これからの業務に生かしていかなければならないと思います。

技術コーナー

木質系廃材の再資源化への取り組みについて

四国開発 株式会社 隅田 吉昭 (土木部長)

1. はじめに

建設工事に伴う建設廃棄物は最終処分場に持ち込まれる6,800万トンの産業廃棄物の44%、不法投棄される産業廃棄物の87%を占めており、さらに社会資本の更新に伴い、建設廃棄物はますます増大する事が予測され「資源循環型社会」を構築するためには産業廃棄物のリサイクルを強力に推進する必要がある。

一方建設廃棄物の再利用率は1995年実績でコンクリートは65% (2000年目標は90%) アスファルトは81% (同90%) だが木材は40% (同90%)。木材の他さまざまなものが混じった混合廃棄物は11% (同50%) しかリサイクルされてなく、木材のリサイクルが極めて重要である。

さらに改良工事で伐採した立木や除根等で発生する根株、維持作業で発生する剪定枝、除草作業で発生する刈草の処理などが1997年12月に大気汚染防止法が改正され二酸化炭素(CO₂)を大量に排出する野焼きができなくなった。この様な事から、当社は木質系破砕機(ビースト機)を導入し、土で育ったもの(伐採材)を大地に還元することによって自然との共生を図りながら再資源化に努めているので、この取り組みについて紹介する。

2. 木質系破砕機(ビースト機)について

1) 作動原理

- a) 掴み装置付きバックホウでビースト機に投入された木材は水平スチールコンベアで送られ、供給ローラーで押さえながら、カッターヘッドに送り込まれ高速回転のカッター爪により切断される。
- b) 切断された材料はスクリーンを通り排出コンベアに排出される。
- c) 破砕される材料に含まれた金属は排出コンベアの先端で選別され一ヶ所に落下する。
- d) チップの大きさは、カッターの種類とサイズ(3種類、カッター数60本)及びスクリーンのサイズ(19~152mm)により幅広く選択できる。

2) 破砕能力

破砕能力は材料の堅さ、大きさ、種類(伐根、剪定枝等)の作業条件により1日当た

りの処理量が異なり、又チップサイズを調整するスクリーンによって違ってくる。

一般的には150~250m³/日の処理が可能である。

3) チップ材の用途

チップ材の用途としては火力発電の補助燃料、マルチング材、舗装材として、又、二次処理する事により有機肥料、法面緑化吹付用基盤材などがあげられる。

我社は堆肥化工場に持ち込み有機肥料にしたり、発生現場での法面緑化基盤材や蜜柑園でのマルチング材、カブト虫の養殖床等に利用しており、今後舗装材としても利用したいと考えている。

4) チップ化のメリット

ピースト機は牽引式の構造となっており現地での処理が可能である。

発生木材の大部分は嵩張った形状をしておりチップ化により細分化され野積みの状態から処理後の容積は処理材の種類によりばらつきがあるものの大幅に減容化される。坂本ダム貯水池内伐採木処理工事実績では処理前容積9300m³が約5100m³と55%に減容化された。

現地処理減容化により輸送トラック台数が減り、輸送コストの縮減のみならず車両から発生するCO₂の抑制にもつながる。

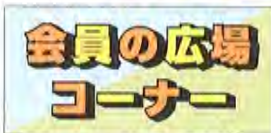
5) 問題点と課題

現地処理により減容化できる反面、処理材が少量の場合、ピースト機の運搬費との経済比較、あるいは搬入経路が狭溢で持ち込めない場合の検討も必要である。

又、家屋近接地での施工の場合も騒音、粉塵対策に十分な配慮を要する。

6) おわりに

2000年10月26日に高知市の化学工場跡地（県営住宅建設予定地）からダイオキシン類特別措置法に定められた基準以上のダイオキシンが検出されたと発表されている。ダイオキシンの発生量の大半は廃棄物の焼却により発生しており廃棄物の焼却はやむを得ないもの以外はやめる時期にきている。このため木材についてもコンクリート殻等のようにチップ化等による再資源利用計画を早急に確立させて「資源循環型社会」を目指していくべきである。



古墳とトンネル

須工ときわ 株式会社 谷 昭 (取締役工務部長)

平成12年4月、工事敷地内を調査中の埋蔵文化財センターから、前方後円墳が存在しているとの話が出てきた。これが今回の古墳とトンネルの発端です。

場所は、徳島県鳴門市撫養町大代地区、鳴門市街の西側、国道11号線から1km位西に入った所で、本四公団明石鳴門ルートの四国側の入り口鳴門インターチェンジの西約800mにある山頂である。付近は田園地帯で山麓に民家が点在し、梨や稲作、特産の鳴門金時、南の鳴池線沿線ではレンコンの栽培が盛んです。

ここでまず工事の内容について述べたいと思います。

工事名称：四国横断自動車道 鳴門インターチェンジ工事

発注者：日本道路公団

工期：平成11年11月26日～平成13年10月15日

施工業者：(株)姫野組・須工ときわ(株)JV

この工事は本四公団の明石鳴門ルートと高松から引田、板野経由の高速道を接続するために、現在のインターチェンジを西側に移動し、料金所を本線上から、進入路上に移動する工事で、現在のインターのすぐ西側を本四公団が施工、そこから西の工区は道路公団の工事となっています。ちなみに本四公団工事は、大旺建設・堀部組JVの施工で、隣接して我々の工区となり今回の古墳は工区西端の本線上に出現したものである。

それでは、この鳴門・大代古墳の概要について述べてみたいと思います。これは古墳時代前期末(四世紀後半)に造られた前方後円墳で、全長54m、前方部長さ23m、後円部径、南北31m、東西45m、墳丘の高さ前方部3.3m、後円部6.7mで徳島県では最大の規模であり、後円部の中央に堅穴式石室がつけられ、中に剣抜式舟形石棺(クリヌキシキフナガタセツカン)が安置され、その周囲を玉石で囲み四方を吉野川南岸産の青い結晶片岩を積み重ね石室の壁及び天井を作っています。

石棺は香川県津田町火山産の白色凝灰岩を使用したものと思われ、全長2.84m全幅0.87m、内部は長さ2.23m、幅0.66m、深さ0.42mあり、棺の両端部に丸い突起(縄掛突起)が付いています。

副葬品については、大規模な盗掘にあっているもので、埋戻し土の中や石棺の周囲から銅鏡片、管玉、白玉、銅鏃、鉄鏃、刀剣片、鉄斧、ヤリガンナ等多数出土したそうです。

古墳の主は、石棺が40kmも離れた所から運ばれている事や、古墳の規模が大きい事から、この地方の海上交通を支配していた首長とみられ、この時代から瀬戸内海上交通の北岸ルートの他に鳴門海峡を経由して阪南、和歌山方面への南岸ルートが存在していたのではないかと今回の発見により考えられている。

そこでこの古墳を現地に残す事になり、古墳の下をトンネルで抜くことになりました。

それでは、今度はトンネルについて説明いたします。トンネル名称は大代トンネル、延長77m、仕上がり高さ8.5m、幅15mの上下線各3車線のメガトンネルです。工法は先進導坑機械掘削NATM工法で、上下線各外側に側壁導坑(幅4m、高さ4.5m)、中央接合部に中央導坑(幅6m、高さ4.5m)を抜き、支保工台座コンクリートを施工後本線を上・下半機械掘削で掘進するようになっています。

なおこのトンネルは、土被りが最大で13m位しかなく、山に対してトンネルが斜めに入るので、両坑口は抑え盛土で補強し、坑口部は、トンネル上部にφ114mm鋼管を45cmピッチに挿入しセメントを注入して、山を固めた後に掘進する。中央部は先受ロックボルト及びロックボルトを施工する。吹付けコンクリート厚は30cm、鋼アーチ支保工は足元を台座で固定して、沈下を抑え、全線インバートコンクリートで足元を固め、覆工コンクリート厚は50cm、鉄筋とファイバー入り高強度コンクリートにて補強されます。

この工事では、側壁導坑2本、中央導坑1本、本線トンネル2本、合計5本のトンネルを抜くことになり、上り線側壁導坑は、下り線掘削中は、工事用道路として、資材運搬及び隣接工区の残土処理用として利用されるようになっています。

まもなく、高松道と明石鳴門ルートが接続され、鳴門インターの西側にジャンクションが出来て、徳島道の徳島インターへと南進し、引き続いて阿南市に向けて高速道は伸びていきます。

高知から京阪神へは、瀬戸大橋ルートに続き、明石鳴門ルート経由でも、全線高速道を利用出来る日もまもなく訪れ、ますます便利になります。四国横断自動車道という懐かしい名前、現在の高知自動車道大豊南国間の工事を担当した者にとっては、夢のようです。

委員会コーナー

土木施工管理技士受験のあれこれ

広報委員会副委員長 小花章生 (入交建設㈱ISO関連室長)

私は前の職場で、昭和46年5月、二級土木施工管理技士の資格は講習を受けて取得していたが、其の後一級の資格までは必要ないとの思いで受験する事を考えた事がなかった。

平成元年4月、入交建設㈱に入社してから、一級土木施工管理技士資格取得を進められて受験することになった。

平成2年の受験案内では、学科と実地の試験で内容は、一般土木・施工管理・法規について実施するとあった、受験準備は今考えると講習会に参加したり、試験問題集の購入などによる対応策は幾らでも有ったと思うが、其の時はどうした事かこれらの事が頭に浮かんでこなかった。当時鏡ダム管理事務所のY課長との対話の中で、土木雑誌に毎年の出題が解答付で掲載され其のコピーを持っていると言われて、早速昭和58年度から昭和62年度までの5ヶ年間をコピーさせて貰った。

いざ受験するとなると、60才を前にして、今更受験をと言う気持ちへの抵抗感もあったが、私は其の時、ふと3年前83才で来世へと旅立った父の事が頭に浮かんだ。

父は電力会社に務めていた事から電気技士の資格試験を受けていた。それは私の誕生以前からと聞いているので、父にとっては生涯をかけての取り組みだったと考えられる。

私が気にかけていた時は、一種電気技士の試験になっていたが、結局50才を前にして健康を害し受験を諦めていた。

故郷の三崎の家には、電気技士試験に関する雑誌がたくさん保存されて居たが、それを見る度に何年も諦める事なく続けた、父の受験に対する執念への偉大さをつくづく感じた事である。この様な父の受験への思い出の中で、当時の父の年令を遥かに過ぎた現在、一級土木施工管理技士資格取得に挑戦するのは大丈夫だろうかと言う不安である。考えて見ると学校卒業後の就職採用試験から始め、其の後何回かの資格試験に臨んでいるが、受験は身心共に大変な努力と根気のいる事を充分実感しているので、果たしてこれらに堪えられるのか心配であった。

兎にかく8月の試験に向け準備せねばならない、幸い私は土木の知識がある。しかし本格的な土木技術の勉強など今更出来る筈も無いので問題集を参考にして学科の勉強をする事にした。又勉強の時間は頭の冴えた朝が良いと思い、会社の始業前を考えて、午前7時に出社することに決めた。

初日早過ぎるのではと心配しながら出社すると、既にK常務が出社され窓も開放されて居た。其の後約6ヶ月間会社で静かな朝の勉強をする事が出来た。早朝出勤は私の役目ですからと言ってくれたが、K常務には大変感謝した事である。試験は会社の渡辺英二君と一緒に高松市で受けたが、試験終了後、会場の校門前で別れる時、英二君が「小花さん問題は割と分かりよかったですねー」との言葉を聞き「ガックリ」実は試験結果の良し悪しを判断するだけの余裕が私にはその時なかった。其の後、英二君共々合格通知を受け、実地試験も無事合格し、平成3年3月、一級技術検定合格証明書を手にすることが出来た。

又来世から影ながら応援してくれたと思う父には幡多方面の営業途中、故郷の香佛寺に立ち寄り合格報告の墓参を済ませ、帰高した事である。其の後の一級土木施工管理技士資格も県外に出向したり、経営資源になったり、色々な形で活躍している。一方私の方は朝7時過ぎの出社は勉強こそやめたが変える事も出来ず今も続いている。

一級技術検定合格証明書も、何時の日か役目も終わる事であろう、いやそれは明日の事かも知れない。その時は御苦勞様と嬉しいを言いたい。

最後に、一緒に合格した優秀な社員であった、渡辺英二君其の後若くして急逝され、誠に残念に思います。御冥福をお祈り致します。

実施行事報告 (H12.9月～12月抜粋)

- H.12. 9. 5～6 1級土木(実地試験)受験準備講習会(78名)
 9.19 監理技術者講習 計3回(9月19日・11月21日・12月7日 延401名)
 10. 1 1級土木実地試験実施
 11. 6 平成12年度土木施工管理技術講習会(四国4県統一テーマCPDS対象講習会)(97名)
 テーマ 「高知県建設工事技術管理要綱の改定について」
 高知県土木部 技査 掛川 寿彦
 「高知県の土地改良事業について」
 高知県農林水産部 技査 小笠原 日出男
 「林野公共事業をとりまく情勢と木材の利用促進」
 高知県森林局 技査 甲藤 邦廣
 「事故の現状を踏まえた防止対策」
 四国地方建設局 主任工事検査官 大喜多 孝雄
 「工事写真管理技術(その1)」
 四国地方建設局 工事検査官 金岡 嘉彦
 「工事写真管理技術(その2)」
 四国地方建設局 工事検査官 三好 正明

※ 四国4県受講者数(正会員数)

	受講者	(会員人数)
高知県	97	(2,175)
愛媛県	231	(1,721)
徳島県	193	(1,400)
香川県	184	(1,076)



高知城ホール

- 11.22 平成12年度中国・四国土木施工管理技士会連合会
 ブロック協議会及び技術交流会(於 広島市・八丁堀シャンテ)
 建設省中国地方建設局、四国地方建設局、中国5県土木部、全国土木施工管理技士会連合会等から44名のご出席をいただきました。
 議 題 「土木施工管理技士の重視活用、社会的地位の向上のため今後の技士会の進むべき方向について(要望・その他)」他
 記念講演 「公共事業をとりまく課題」について 長谷部正和・建設省中国地方建設局企画部長の講演が行われた。



広島市・八丁堀シャンテ

(参考) 建通新聞掲載記事(平成12年12月1日金)

ブロック協議会などを開催

中四土木施工管理技士連合会

中国・四国土木施工管理技士会連合会(中国-柴田修三会長、四国-村上博会長)は、11月22日に広島市中区八丁堀シャンテにおいてブロック協議会と技術交流会を開催した。

当日は行政側から中国地建、四国地建ほか中国地区の各県から出席した。技術交流会においては、行政側と中・四国土木施工管理技士会連合会との技術交流意見交換を行った。連合会側から①公共事業の今後の展望について②主任(監理)技術者の現場専任制の徹底について③土木施工管理技士会所属技士の評価・活用について④2級土木施工管理技士の権限と地位の確立について⑤経営事項審査における技術者(国家資格者)の評価の改善について⑥地方公共団体における入札制度の、技術力重視への改善の指導についてなどの6項目を要望した。

事務局だより

土木施工管理技術検定試験の受験資格の緩和に向けて

1. 技術検定制度の創設と土木施工管理技士制度の創設

建設業法第27条に基づく技術検定制度は、施工技術の向上を図る目的として創設された制度で、現在は施行令により6種目について、1・2級に区分し、学科試験と実地試験が行われています。

◎ 土木施工管理技士は昭和44年度創設です。

土木施工管理技士制度による、技術検定試験は1級が昭和44年11月、2級は翌年の昭和45年8月から開始されました。

昭和59年8月建設省告示で2級資格に「土木」のほかに「鋼構造物塗装」「薬液注入」が加わり、現行3種別ごとの登録人数は、表-1のとおりです。

表-1 土木施工管理技士数

(H12. 3. 31現在 単位:人)

種 別		登録人数
1級土木施工管理技士	土 木	439,293
2級土木施工管理技士	土 木	1,062,800
	塗 装	5,170
	薬 注	2,553
計		1,509,816

この技士数は、昭和44年度に初めて土木施工管理技士検定試験が実施されて以降30年、平成11年度の検定試験まで合格した全国総数で延べ、150万9,816人に及んでいます。うち、四国4県は延べ7万5,317人、表-2のとおりです。

表-2 県別土木施工管理技士検定合格者数(昭和44年~平成11年)

(平成11年度末現在)

都道府県	1 級	2 級				合 計	
	土 木	土 木	塗 装	薬 注	小 計		
四 国	徳 島	4,356	15,819	51	15	15,885	20,241
	香 川	4,282	10,895	60	44	10,999	15,281
	愛 媛	6,497	16,631	60	33	16,724	23,221
	高 知	4,586	11,949	32	7	11,988	16,574
	計	19,721	55,294	203	99	55,596	75,317
全国計	439,293	1,062,800	5,170	2,553	1,070,523	1,509,816	

(財)全国建設研修センター資料より

以上数値は、登録人数であり既になくなった人や仕事から離れた人、1級と2級の資格が重複しているケースなどを除き推計する数字では現在、土木現場で活躍している土木施工管理技士の資格者数は、全国で推計100万人に及ぶと見込まれています。

2. 平成12年度土木施工管理技術検定試験結果表（試験地別）

1 級 土 木 (学科) 試験日 平成12年7月2日
合格発表日 平成12年8月17日

2 級 土 木 (学科・実地)試験日 平成12年7月16日
合格発表日 平成12年10月17日

平成12年度1級土木施工管理技術検定学科試験結果

平成12年度2級土木施工管理技術検定試験結果

試験地	出席者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
札幌	3,599	1,607	44.7
釧路	862	340	39.4
青森	1,687	661	39.2
仙台	5,256	2,544	48.4
東京	16,065	8,394	52.3
新潟	2,322	1,232	53.1
名古屋	7,547	3,778	50.1
大阪	12,006	5,869	48.9
広島	3,478	1,725	49.6
岡山	1,698	835	49.2
高松	2,737	1,332	48.7
福岡	9,258	4,234	45.7
那覇	2,720	989	36.4
全国計	69,235	33,540	48.4

試験地	出席者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
札幌	1,668	1,152	69.1
釧路	403	290	72.0
仙台	3,946	2,625	66.5
東京	7,538	5,128	68.0
新潟	1,684	1,210	71.9
名古屋	4,321	2,795	64.7
大阪	5,610	3,686	65.7
広島	1,854	1,226	66.1
岡山	939	592	63.0
高松	1,602	1,001	62.5
福岡	4,625	3,119	67.4
那覇	717	464	64.7
全国計	34,907	23,288	66.7

※1級土木（実地）試験日 平成12年10月1日(日)
合格発表日 平成13年1月23日(火)

3. 受験資格の規制緩和～今回改善決定

建設省は、1級土木施工管理技士等の技術検定試験の受験資格を見直し、平成13年度から適用します。改正の受験資格は、表-3のとおりです。

表-3 建設業法の技術検定受験資格の改正について

「1級」の受験資格が改正されました。(平成12年9月18日付 建設省告示第1875号)

新受験資格

学歴又は資格	資 格	実務経験年数	
		指定学科	指定学科以外
大 学		3年以上(1年)	4年6カ月以上(1年)
短期大学		5年以上(1年)	7年6カ月以上(1年)
高等専門学校	2級合格者	—	7年以上(1年)
高 等 学 校	2級合格者	専任の主任技術者経験者	7年以上(1年)
		—	9年以上(1年)
		専任の主任技術者経験者	8年以上(1年)
		上記以外の者	10年以上(1年)
そ の 他	2級合格者	専任の主任技術者経験者	12年以上(1年)
		—	14年以上(1年)
		専任の主任技術者経験者	13年以上(1年)
		上記以外の者	15年以上(1年)
2級合格者		2級合格後5年以上(1年) (該当者は平成7年度までの技術検定合格者)	

〔注〕()内は、実務経験年数のうち、指導監督の実務経験年数です。
但し、専任の主任技術者経験者にあつては、実務経験年数のうち、専任の主任技術者としての経験年数です。

- 高卒、中卒の方も「1級」を直接受験可能となりました。
- 2級の合格者は、無資格から受験するより経験年数が短縮されました。
- 1年以上の「専任」の「主任技術者経験者」は経験年数が2年間短縮されました。
- 13年度から適用されます。

※「2級」土木施工管理技士等の技術検定の受験資格は従来どおりです。

広報等連絡コーナー

技術委員会

「高知県建設工事施工管理必携〔1〕」 限定販売中

私ども技術委員会で永年の懸案でありました、土木技術者のための手引書を平成12年11月に発行しました。

土木施工管理の受注から完成までの事務処理を1冊に集録。
日々の処理を手助けする様式集です。

・会員価格(3,000円) 一般(4,000円) 限定出版 500冊

※平成12年12月10日、在庫少なくなっています。お早めにお役立て下さい。

広報委員会

・第5回技術論文募集

募集対象者：各都道府県等技士会会員（個人またはグループ）発注者と共同記述も可
分野：建設工事における土木施工管理に関する品質管理、工程管理、安全管理、環境対策、新技術等

字数：5000字以内

締切：平成13年3月15日

応募先：各都道府県等土木施工管理技士会 事務局

・「現場の失敗」寄稿のお願い

タイトル：現場の失敗

内容：あなた自身の、又はあなたの身近で起こった失敗例で、ちょっとした気のゆるみが招いたものを始め、無理な工期、工事費が原因となるもの、発注者が設計変更を認めないなど、施工者、発注者、コンサルタントの認識がかみ合わずに、結果として失敗につながった施工例など、失敗した原因とその結末、対処方法について、なるべく図を添付してお寄せください。

執筆者：すべて匿名とし、所属技士会名も掲載いたしません。

執筆者関係各位にご迷惑のかからぬよう、地名、固有名詞類も掲載いたしません。

字数：800字～2400字（図・写真がある場合は1枚300字で計算）

締切：平成13年3月15日

宛先：所属土木施工管理技士会 事務局 まで

応募者、寄稿者には全員、CPDSのUNIT（学習評価単位）が付与、登録されます。

技士各位の奮っての応募を期待します。

平成13年度 1、2級土木施工管理技士試験と講習会のご案内

～土木施工管理技士をめざして～

財)全国建設研修センターが建設業法に基づいて実施します「試験・研修」、また、(社)高知県土木施工管理技士会が行います「受験準備講習会」を次のとおり予定しています。

なお、申込み用紙(願書)の販売方法、講習会への受講申し込み方法については、決定次第会員各位の所属会社にてご案内文書を発送いたします。

－ 実 施 予 定 －

◎ 検定試験



1級(学科)	申込受付	平成13年3月1日～3月15日
	試験日	〃 7月1日(日)
1級(実地)	申込受付	平成13年8月17日～8月31日
	試験日	〃 10月7日(日)
2級 (学科・実地同一日)	申込受付	平成13年3月1日～3月15日
	試験日	〃 7月15日(日)

◎ 受験準備講習会(「検定試験」受験に備える講習会)

1級(学科)	日 程	平成13年5月29日～31日 〃 6月5日～7日	} (6日間)
	会 場	高知市	
	受 講 料	会員：45,000円・一般：48,000円	
	再受講者割引	(H11～12年度当講習会参加者) 会員：35,000円・一般：38,000円	

「実力テスト」	日 程	平成13年6月16日(1日間)
	会 場	高知市
	受 験 料	受験講習会参加者：4,000円 テストのみ参加者：6,000円

1級(実地)	日 程	平成13年9月6日～7日(2日間)
	会 場	高知市
	受 講 料	会員：20,000円・一般：22,000円
	再受講者割引	(H12年度当講習会参加者) 会員：18,000円・一般：20,000円

2級	日 程	平成13年6月12日～14日(3日間)
	会 場	高知市
	受 講 料	会員：30,000円・一般：33,000円
	再受講者割引	(H11～12年度当講習会参加者) 会員：25,000円・一般：28,000円

